

平成18年度 第2回 微生物農薬検討会 議事要旨

日 時： 平成18年10月23日(月) 15:00～16:45

場 所： 農薬検査所 小会議室

出 席： 青木、島津、三瀬(座長)各委員(五十音順)
(事務局) 農薬検査所

今回の微生物農薬検討会は、新規申請のハスモンヨトウ核多角体病ウイルス(ハスモン天敵) 並びに、前回検討したバチルス シンプレクス剤(モミホープ)及びポーベリア バシアーナ剤(バイオリサ・マダラ)に関する指摘事項への回答を議題として開催された。

議題1 ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス(ハスモン天敵)

- (1) 事務局より、本剤については、当検討会で初めて審議を依頼するものであること及び提出された試験成績等資料の概要及び評価案が説明された。
- (2) 原体規格について、夾雑微生物の基準値の設定根拠を明らかにするよう指摘がなされた。
- (3) その他は問題なく、指摘事項を除き、評価案は了承された。

議題2 指摘事項への回答

1) バチルス シンプレクス剤(モミホープ)

(平成18年度第1回検討会指摘事項)

- (1) ヒメクサカゲロウに対する影響試験における試験結果を精査し、本微生物のヒメクサカゲロウに対する影響について考察する必要があるとの指摘に対し、事務局より、経口毒性試験における死亡率・蛹化率・羽化率には有意差は認められず試験物質の影響はなかったと考えられること、繁殖影響試験における処理区と無処理区のふ化率・有効産卵数の差は個体差に起因するものと考えられることから、ヒメクサカゲロウに対して特に問題となる影響を与えないと考えられる等の説明があり、了承された。

2) ポーベリア バシアーナ剤(バイオリサ・マダラ)

(平成18年度第1回検討会指摘事項)

- (1) 本微生物のジョロウグモへの感染性の有無を確認し、本微生物のジョロウグモに対する影響について考察する必要があるとの指摘に対し、事務局より、 1×10^7

個/ml 処理によりジョロウグモの生存日数が短くなったこと等の説明があり、確認の上、使用上の注意事項を付すことで、了承された。

- (2) 農薬抄録について、試験成績の結果を適切に反映するよう見直すこととの口頭指摘に対し、事務局より、指摘通り訂正した旨の説明があり、了承された。

その他

- (1) ハスモンヨトウ核多角体病ウィルスの開発に携わられた委員においては、当該審議から退席して頂いた。

- (2) 次回は、平成 1 9 年 2 月に開催する予定とされた。